



「助産師教育における将来ビジョン2021」の実現に向けて

公益社団法人全国助産師教育協議会 会長
神奈川県立保健福祉大学 村上 明 美



このたび、2021（令和3）年度の全国助産師教育協議会定時社員総会にて、本協議会会長に再任され、引き続き2021-2022年度の会長をお引き受けすることになりました。皆さまにおかれましては、これまで同様、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響はまだまだ大きく、助産師教育においてもこれまで経験したことのない状況に直面しています。各学校ではICTを活用した遠隔授業や、ソーシャルディスタンスに配慮した少人数での対面演習、臨地実習の制限に伴う学内実習への切り替えなど、様々な工夫や調整を行っていただいております。新型コロナウイルス感染症が収束しない状況下でも、学生がこれまでと同様の助産実践能力を修得して卒業できるように、教員の皆さまにはさらなるご尽力をお願いしなければなりません。また、コロナ禍であっても助産師を目指す学生に対しては、どうぞ丁寧な対応をお願いいたします。

さて、先日の定時社員総会では、今後5年を想定して「助産師教育における将来ビジョン2021」を提示し、承認していただきました。以下にビジョンを紹介いたします。

【ビジョン1】 助産師学生の実習前／卒業前の能力を担保する

会員校の助産師学生を対象とした実習前／卒業前の助産師教育共用試験（CBT：Computer Based Testing / OSCE：Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）の導入を図り、学生の能力を担保するシステムを開発することを考

えています。

【ビジョン2】 助産学担当教員の教育力の向上／保証、および臨地実習指導者の指導力の向上を図る

「望ましい助産師教育コア・カリキュラム2020年版」を実行するために求められる教育研修を体系的に展開します。また、本協議会が示した「助産師教員キャリアラダー」に基づき、助産学担当教員の教育力を保証するためのキャリアラダー認証制度の設立を進めていきます。

【ビジョン3】 助産師教育／助産学担当教員・臨地実習指導者研修の危機管理体制を構築する

通常の助産師教育が阻害される危機的状況下においても、ICT等の活用により、これまでと同等の学習が保証される助産師教育環境を整備していきます。また、危機的状況を想定し、助産師教育で培うべき助産実践能力の修得を促進する教育方法の検討を行います。

【ビジョン4】 すべての教育課程において、看護基礎教育に積み上げた修業年限2年の助産師教育を推進する

2年間で「望ましい助産師教育コア・カリキュラム2020年版」が実施できるように、モデル・カリキュラムや参考となる教育実践例を示していきます。

本協議会は上記4つのビジョンに基づき、今後の事業を展開していきます。皆さまにはビジョンに対する理解を深めていただくとともに、ビジョン実現に向けて、引き続き本協議会へのご協力をお願いいたします。

扉	1
教育・活動報告	2
ニュース	4
わかばの部屋	6

全助協からのお知らせ	7
トピック	8
理事会報告	10

第46回全国助産師教育協議会全国研修会報告

中国・四国地区担当

鳥取県立倉吉総合看護専門学校 橋井美紀

第46回全国研修会はテーマを「再考、助産師教育—専門職の成長を支える—」として、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となりました、第45回全国研修会のテーマを引き継ぐかたちで開催いたしました。

今回の全国研修会におきましても、先の見えない新型コロナの状況に、開催形式から悩みましたが、安全を第一に、確実に配信できる事前録画でのweb配信としました。配信期間を10日間設け、期間中であればどの時間帯でも閲覧が可能であったため、参加しやすかったのではと思います。

研修会の内容は、第45回の全国研修会の講演を是非受講したいという声と、カリキュラム改正も見据え、さらなる助産師教育の質の向上につながるよう、教育、研究、助産管理、倫理と、様々な視点から助産師教育を再考できる内容としました。

教育に関する講演は、北海道大学大学院の松尾睦先生および岡山大学大学院の藤井宏子先生よりご講演いただきました。松尾先生には、『経験から学び、人を育てる』としてご講演いただき、「経験から学ぶ力のモデル」などについて話され、教員としての役割の重要性など学ぶ機会となりました。アンケートでは、「経験から学び、学生の力を伸ばせる教員でありたいと思った」「成功体験からの気づきを大事にしたい」など意見をいただきました。藤井宏子先生には、『カリキュラム改正を機に自校の助産師教育を再考する』としてご講演いただきました。カリキュラム改正に向けて検討している中でのタイムリーな内容であり、新カリキュラムにおいての3つのポリシーの関係性など、実際の取り組みも交えお話しいただき、カリキュラムを再考するうえでの考え方やヒントを沢山得ることができました。アンケートでは、「卒業時の到達目標が急な崖になるかもしれないが、時間が短くてもその崖を登りたいという人もいるかもしれない。教員は、強力なザイルでサポートし必要時には引き上げる力技も求められると思う」などの意見がありました。

また、研究に関する講演は、札幌医科大学の樋之津史郎先生より、『データから真実をよみとる』としてご講演いただきました。研究計画書の重要性や分析におけるポイントなど具体的にお話しいただき、学生の研究指導の向上につながる講演となりました。

また、リアルワールドデータを用いた観察研究など新たな知見も得られました。

そして、助産管理では、日本助産評価機構の堀内成子先生より、『分野別評価受審が教育改善にどう役立つか』としてご講演いただきました。受審のための準備から評価の過程、そして、絶えず改善・向上に取り組むことの重要性を伝えていただきました。アンケートでは「受審しないことは、後退に繋がると感じた。職員の協力を得てチャレンジしたい」など、受審への後押しとなった意見が多くありました。

倫理に関する講演は、ミオ・ファティリティ・クリニックの見尾保幸先生より、『最新の生殖医療から専門職としてどういのちと向き合うのか』という視点でご講演いただきました。対象の方の“夢”をかなえるための先生の信念と貴重な映像の数々から、命の尊さ、重みを改めて考える時間となりました。アンケートでは、「倫理観を持ち、女性が生まれ持つ生殖機能を最大に発揮できるようにプレコンセプションケアを充実させる必要性を強く感じた」などの意見がありました。

今回、すべての講演を助産実践能力習熟段階【教員区分】専門的自律能力または【WHC区分】の更新に利用可能な研修としたこともあり、268名の申し込みがあり、そのうち、臨床や地域で活躍している助産師の参加も2割近くありました。各講演の視聴後のアンケートでは、200名前後の回答があり、たくさんのご意見やご感想をいただきました。また、アンケートの「講演内容は今後の役に立ちそうか」という項目では、97~100%の方々が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しており、今回の研修会のテーマである「再考、助産師教育」として、専門職の成長を支えるためのヒントを得られた研修会となったのではと思います。

最後に、手探り状態で進めた初めてのweb開催であり、至らない点が多々あったと思いますが、事前収録となることにもお力添えをいただいた講師の先生方をはじめ、参加者の皆様、また担当地区の皆様、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。2021年度の全国研修会当番地区である「中部地区」の皆様の研修会開催を楽しみにしております。

2021年度 第12回（通算57回） 公益社団法人 全国助産師教育協議会定時社員総会報告

2019－2020年度 全国助産師教育協議会副会長
新潟青陵大学 渡邊典子

2021年6月19日（土）・20日（日）、第12回（通算57回）定時社員総会、および研修会が、全国助産師教育協議会会議室（東京都新宿区四谷本塩町7-9四谷ニューマンション203号室）で行われました。概要を報告いたします。本社員総会は、新型コロナウイルス感染状況の影響により、昨年度同様、議決権行使書による開催となり、議決権行使書の提出は256名でした（会員総数336名）。また、正会員校2名のオンライン参加枠に対し233名の参加がありました。

最初に村上明美会長から開会挨拶として、コロナ禍における昨年度の助産師教育への影響、そしてコロナ禍を脱していない現状においても、これまで同様の助産実践力を学生が修得できるように、なお一層の努力をお願いしたいこと、加えて、本協議会が社会の動向を見据えながら持続可能な質の高い助産師教育を提供できるように事業展開していくことが述べられました。

総会議長は米山万里枝氏、議事録署名人は真鍋えみ子氏、藤井宏子氏が推薦、承認されました。議長より定款30条に基づき、議決権行使書の提出が正会員の過半数に達しており、総会が成立していることが報告され、議案の審議に入りました。まず、渡邊典子副会長（総務担当）より2020年度委員会活動の報告がありました。続いて中部地区長の田淵紀子氏（地区長総括）より2020年度地区別活動報告、また、中国・四国地区長の橋井美紀氏より全国研修会の報告がされました。以上の事業活動報告は、特に質疑がなく過半数をもって承認されました。正岡経子会計担当理事より2020年度収支決算報告、武田江里子監事より監査報告があり2020年度収支決算、および監査報告は過半数をもって承認されました。渡邊典子副会長から2021年度事業計画について、正岡経子会計担当理事から2021年度収支予算について説明・報告がありました。次に村上明美会長より「助産師教育における将来ビジョン2021」についての説明があり過半数をもって承認されました。また、本総会の終結の時をもって理事、および監事の役員全員の任期満了に伴う後任者選任について、選挙管理委員長の青柳優子氏より2021年－2022年度理事候補当選

者、2021年－2024年度監事候補当選者の結果と紹介があり、その選任について、過半数をもって承認されました。以上をもって定時社員総会は終了しました。その後地区別打ち合わせ、「新カリに向けての準備」というテーマでの教育課程別検討会、そして、これらの全体報告会を行いました。最後に、日本助産実践能力推進協議会から「2020年アドバンス助産師更新結果分析報告」が高田昌代氏からありました。

2日目もオンラインによる研修会が行われました。最初に新会長および新役員の挨拶、そして、旧役員の挨拶がありました。その後、省庁挨拶として、文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官 高橋良幸様、厚生労働省医政局看護課看護教育係 奥田清子様、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健指導専門官 山川律子様との3名からコロナ禍も踏まえた看護系大学における助産師教育、看護行政の動向と助産師教育、母子保健政策の動向に関する話題提供をいただきました。次に村上明美会長から「2020年度助産学実習実態調査」の報告と総会で承認された「助産師教育将来ビジョン2021」と事業等の関連についての説明がありました。最後に地域医療振興協会地域医療研究所シニアアドバイザーの北村聖氏より「助産師教育における共用試験の意義」と題して教育講演をしていただきました（上記3つはアドバンス助産師更新要件研修、約300名参加）。各内容に対するアンケートでは殆どの方から「大変有意義」「有意義」の回答とご意見等もたくさんいただきました。今後の事業に活かしていきたいと考えます。

閉会の挨拶は、渡邊典子副会長より、オンラインによる総会と研修会ではあったが、会員と顔を合わせたの情報交換等、有意義な時間を共有できたこと、「助産師教育における将来ビジョン2021」と「望ましい助産師教育コア・カリキュラム2020年版」を連動させ助産師教育の質担保とより良い教育の展開を会員校の皆様の協力のもとに進めたい旨が述べられました。

今後とも会員の皆様の本会への引き続きのご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

コロナ禍における助産学教育

札幌医科大学専攻科助産学専攻

正岡 経子

2020年度は、新型コロナウイルス感染症で幕を開け、2021年度も変異株の出現により助産教育の工夫と挑戦は続いています。1年間の助産教育課程である本学が、コロナ禍の中で行ってきた助産師教育の一部をお伝えしたいと思います。

2020年4月に新入生オリエンテーションを短時間で行った翌日から登校禁止となり、大学は事実上のロックダウン状態。校内から学生の姿が消えて、静かな、そして寂しい大学の風景となりました。大学に設置された危機対策本部のもと新型コロナウイルス感染症に係る学部内対策会議の中で助産学専攻の授業対応について検討されました。7月から15カ所の施設で助産学実習を予定していましたが、少しでも対面で技術演習をしたいと思っていましたが、その願いは叶わず5月上旬から全面遠隔授業となりました。新型コロナウイルス感染症に関する情報が不十分かつ不確かな中で、慣れない遠隔講義に四苦八苦しながら、社会に送り出せる助産師をどのように養成したらよいか暗中模索の日々でした。

6月中旬、遠隔では学習効果が得られない授業のみ対面が可能となった際、真っ先に手を上げたのは助産学専攻でした。感染対策をしながら週に2日程度の対面授業で最初に行った演習は、コロナ禍に相応しくPPEの装着でした。昨年度は17名の学生が在籍しており、対面授業時の学生の真剣な表情と休み時間にも練習を続ける姿には何度も胸が熱くなりました。

少しでも演習が出来るようになることと次の願いは、助産学実習で病院に向かうことです。その頃には、予定していた実習施設から「実習不可」「実習受け入れ保留」の回答が届き始めていました。PCの画面越しではなく生の助産師に会って欲しい、モデル人形ではなく、本物の母子と関わって欲しい、そして助産師という職業を選んで良かったと思って欲しいと思い、実習施設と相談を続けました。

ようやく実習に行けたのは、8月末。15カ所の施設で助産実習を行う予定でしたが、その頃には、6施設となっていました。1人10例程度の分娩介助は見込めないことは必至でしたので、全国助産師教育協議会が作成した助産学実習2020学内実習指針に基づき、学内実習計画を立てました。病院実習で分娩第1期に関わり分娩介助まで至らなかったケースが

あった場合、その後の経過について情報を得て、学内で第2期以降のケアと分娩介助を行い1例としていきました。

学内実習では、教員が作成した紙カルテからの情報収集、朝の行動調整、産婦への挨拶とケア、指導者への報告、助言、ケアの振り返りを行い、臨床実習そのままの様子が繰り返されました。開始当初は、学内実習担当の教員が一人で実習指導者役、産婦役、教員役などをこなしていましたが、コロナ感染症第3波の予兆がみられた頃から実習時間の短縮、見学実習となった施設から、学内実習に参加する学生と教員が増えてきました。シミュレーションラーニングの効果を高めるためには、教員も学生も「その世界に入り込む」ことが重要とされています。その原則に則り、予測に反して一気に進行する分娩経過や、臨床の緊張感を醸し出す指導者（教員）を前に緊張しながら報告する学生の姿。長い不妊治療を乗り越え妊娠し分娩第1期にある産婦役を担当している学生の中には、「先生、この時の産婦さんの気持ちについて相談したいんですけど」と産婦のものになり切ろうと教員に助言を求める学生も現れました。

学生の真剣な眼差しを前に教員も教材の工夫を行いました。ゴム手袋に水を入れて胎胞排臨を作り破膜の実施や、児心音の再現には「妊婦腹部触診モデル」を分娩台の近くに設置し、内蔵されている胎児心拍機能を手動で操作し、陣痛発作に合わせて早発一過性徐脈や変動一過性徐脈を作り出していました。このようにして本学の周産期実習室は、毎日赤ちゃんが生まれる「分娩室」となっていました。

一方、コロナ禍の中、医療機関に向いて実習を行っている学生は、いつ実習が中止になるかわからない切迫感の中、臨床現場で貪欲に学ぼうと必死でした。ある日、教員が学生の控室で「学びの共有ノート」を発見しました。1人が体験したことを他の学生と共有するためのノートには、手順や方法だけでなくその時に自分が感じたことや指導を受けた内容、反省や喜びなど素直な気持ちが含まれています。状況描写が詳細で、まるでその場にいるかのような体験ができる記録になっています。様々なスタッフのケアの工夫も記載されていました。1人の学びを可視化し、共有することで学びが何倍にもな

る宝のようなノートで、「助産師になる」という覚悟や責任も詰まっていた。

あと1週間、あと3日、あと1日だけでも病院実習を継続したいという願いも届かず、11月中旬には病院実習が全面中止となりました。その1週間後には、学生は登校禁止となり、自宅にいる学生と大学の産科実習室にいる教員をつないだ遠隔実習の道しか残されていませんでした。特に大変だったのは、ハイリスク新生児を対象としたNICU実習です。紙上事例を設定し、保育器に収容された未熟児モデ

ル人形をビデオで映し出しました。学生は、オンライン上で必要な看護を述べ、教員が代理実践するという形で行いましたが、視覚的情報やNICUの雰囲気再現するには限界があり、知識面が中心の学習になりました。

コロナ第3波の収束を迎えた頃、学生は助産師として社会に飛び立っていきました。新人助産師教育に引き継ぐ課題は多く、これまでと異なっていると思います。卒後の助産師教育にも責任を感じながら、その後の成長を見守っていきたくと考えています。

搾乳トレーニングモデル

MC-009 (模擬成乳 250mL 付き) 126,000円 (税別)



母乳育児支援を学ぶ上で必要な、乳汁の分泌状態の観察、用手搾乳技術を習得するための乳房モデルです。技術習得に加え、男子学生の体験学習・妊婦や褥婦への指導時にも使用できるモデルです。



製品紹介動画

Medical Craft and Prosthetics

株式会社エムシーピー

〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-64-5 杉村ビル 9階
URL: www.medicalcraftpro.com

TEL: 03-6905-6571 FAX: 03-6905-6572
E-mail: info@medicalcraftpro.com



授乳指導モデル シリーズ

大好評!

「授乳指導法」
映像無償提供中!



授乳指導モデルを使用した「授乳指導法」の映像を無償提供中です。詳しくは弊社ホームページよりアクセスしてください。

◆医学書院 関連書籍のご案内

QRコードから書籍の詳細がご覧いただけます

◎マタニティ診断を深く理解し実践できるようになるための書

実践 マタニティ診断 第5版

編集 日本助産診断実践学会

●B5 2021年 頁288
定価4,180円(税込)
[ISBN978-4-260-04583-4]



◎妊娠期から産後期までの女性と児の助産診断を知るための書

マタニティ診断 ガイドブック 第6版

編集 日本助産診断実践学会

●B6変型 2020年 頁256
定価2,970円(税込)
[ISBN978-4-260-04329-8]



医学書院 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 <https://www.igaku-shoin.co.jp> [販売・PR部] TEL:03-3817-5650 FAX:03-3815-7804 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

助産師基礎教育テキスト 2021年版

B5判



※2022年版は
2022年1月刊行予定

- 第1巻 助産概論
〔責任編集〕 工藤美子
292頁 定価4,180円(本体3,800円+税10%)
- 第2巻 ウィメンズヘルスケア
〔責任編集〕 吉沢豊予子
350頁 定価4,840円(本体4,400円+税10%)
- 第3巻 周産期における医療の質と安全
〔責任編集〕 成田 伸
248頁 定価3,850円(本体3,500円+税10%)
- 第4巻 妊娠期の診断とケア
〔責任編集〕 森 恵美
232頁 定価3,960円(本体3,600円+税10%)

- 第5巻 分娩期の診断とケア
〔責任編集〕 町浦美智子
234頁 定価3,960円(本体3,600円+税10%)
- 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア
〔責任編集〕 江藤宏美
252頁 定価3,960円(本体3,600円+税10%)
- 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
〔責任編集〕 小林康江
404頁 定価5,060円(本体4,600円+税10%)

新版助産師業務要覧 第3版 2021年版

福井トシ子 編

※2022年版は2022年1月刊行予定

I 基礎編 (主に学生が対象)

●B5判 312頁
定価3,080円(本体2,800円+税10%)

II 実践編 (主に実践者が対象)

●B5判 360頁
定価3,300円(本体3,000円+税10%)

III アドバンス編

主に「アドバンス助産師」、
中堅、管理的位置が対象
●B5判 224頁
定価2,420円
(本体2,200円+税10%)

電子版もございます >>>



日本看護協会出版会

〒112-0014 東京都文京区関口2-3-1
(営業部) TEL.03-5319-8018 FAX.03-5319-7206
<https://www.jnpsc.co.jp>

コールセンター(ご注文に関するお問い合わせ)
TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272

学び続ける

新潟青陵大学看護学部 助教

小島 さやか

「先生！お久しぶりです。覚えてますか？」授乳室の壁をつたうように、ゆっくりと歩いてきた笑顔の褥婦。…ああ、Sさんだ。私が教員になりたての頃の学生。聞けば、昨日第2子を出産したばかりという。実習指導に行った産院での数年ぶりの思いがけない出会いに、そして母となり柔らかい表情で新生児を抱く彼女の姿を見て胸が熱くなった。こんな私のことを覚えてくれている学生もいたのか。嬉しさの反面、少し切ない思いでいっぱいになる。

誘われるがままに心の準備もなく教育の道に飛び込んだあの頃。幼い3人の子の子育てに追われ、毎日、無我夢中だった。夜中、末っ子を左手で抱き授乳しながら右手で教科書をめくり、パソコンに向かい、通勤の車内で実習指導方法を考え、ずっと走り続けながらもすべてが中途半端な感じがしていた。教員としての知識も技術も付け焼刃だと自認しているからこそ、学生の前ではそれを隠そうと心に仮面をかぶって接してきたように思う。

助産師教育に携わって4年が経ち、昨年からは参加することになったファーストステージ研修。助産師教育課程の講義中、「あなたは授業を通して学生に何を伝えたいの？」と講師から自分の助産観、教育観を問われたとき、自分の中に明確な答えがないことに気付かされた。自分の無知や怠慢への憤りと情けなさ。講師の言葉は刃のように突き刺さった。ああ、やっぱりまだ努力が足りないんだな。…そんな時の教え子Sさんとの再会だった。時を同じくして、他の教え子Iさんからも結婚報告の手紙が届いた。「先生のおかげで、今も看護職として働いています。先生のご笑顔はとってもとっても癒されました。いつまでも素敵なsmileでいてください」。教育の道は、私にとってはゴールの見えない迷路のようだ。けれど、教員という仕事を通して、未来の看護職たちの人生を少しでも後押しできるのかもしれない。そう思うと、自分のためではなく、これから出会う学生達のためにも私にはもっと学び続ける責任があると感じた。

ファーストステージ研修での研修生との出会いは、貴重な経験になった。訪れたこともない遠方の先生方とZoomで語らう時間の積み重ねは、学び合うことの楽しさを感じさせてくれた。自らの教育の在り方に悩み、昼夜問わず次々と舞い込んでくる仕事の多さにため息をつき、そんな中でも助産師教育の理想や未来を語り合う研修生との時間。教育課程を学び自分たちでカリキュラムを作成し、教育方法

論を学んで授業指導案を作成し、模擬授業も行った。研修生同士、協力して課題に取り組む過程で、目の前の学生に、何を伝えたら産婦に心を寄せることができるのか、どう工夫したら助産実践力を育てることができるのか、これからの助産師に何が求められるのか。繰り返して話し合うなかで、頑張ろうとしているのは自分だけではないと思え、必死で学ぼうとしてきたことはいつか自分の武器になるような気がした。自分は、授業を通して、自らの姿を通して、学生に何を伝えたいのだろう。問いの答えはまだ見つからない気がするけれど、学び続けることの大切さは、今の自分になら伝えられる気がしている。

コロナ禍において、全国どの地域においても、今まで通りに“学ぶ”ことの難しさに直面しているだろう。私が住む新潟県では、昨年、新型コロナウイルス感染症の流行で初めて緊急事態宣言が出た頃から、感染症影響下における助産師教育の状況や対応を県内で助産師を養成する4大学で情報交換・共有することを目的として「新潟助産教育ネットミーティング」が立ち上がった。これまでに6回のZoomミーティングを行い、臨地との実習調整や学内演習のあり方について情報交換ができた。妊娠期からの継続受け持ちが制限される現状において、妊婦と関わる機会を得ることが共通の課題であることがわかり、行政や県助産師会と連携して地域で暮らす妊婦やパートナーと関わる新たな実習の場を設けることにつながった。また、臨地で学ぶ時間が限られる現状からシミュレーション教育の活用を検討し、より学習効果を高められるよう、シミュレーション事例の検討や模擬妊産褥婦の確保についても意見交換できた。助産師教育の質の向上のために大変有用な場であり、今後も定期的にミーティングを開催する予定である。私にとっては、自分を育ててくれた恩師にZoomで再会できたことも幸せだった。学生の頃、不真面目でろくに勉強しなかった私が助産師を目指すきっかけを作ってくれた一人である。今度は私がその縁をつないでいく番だ。

思えば、自分を支えてくれるたくさんの人のおかげで、私は今ここにいる。教え子たち、私を教員として見守り応援してくれる上司、同僚、全国の学びあう助産師仲間、そして家族。助産師教育の未来のために、自分にできることを探していきたい。この仕事を与えて頂いた縁を、大切にしたい。明日の誰かの笑顔のために。

第13回（通算58回）公益社団法人全国助産師教育協議会 定時社員総会開催のお知らせ

日程：2022年6月18日(土)～19日(日)

方法：オンライン開催

担当：オンライン開催の為、担当校はありません。

事務対応 全国助産師教育協議会事務局

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町7-9 四谷ニューマンション203号

T E L 03-6384-2075

F A X 03-6384-2076 (火・金 事務局在室)

E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

U R L <http://www.zenjomid.org/>

* 詳細は、追ってHP、マンスリーメール等でお知らせします。

第47回全国助産師教育協議会全国研修会のお知らせ

日程：2022年2月26日(土) 10:00～3月7日(月) 12:00

方法：WEB開催（オンデマンド配信）

担当地区・担当校：中部地区

岐阜保健大学大学院、岐阜大学医学部看護学科、

岐阜県立衛生専門学校、岐阜医療科学大学助産学専攻科

* 岐阜医療科学大学助産学専攻科総括

内容等、詳細は追ってHP、マンスリーメール等でお知らせします。

分娩介助モデル「ひろこ」

LM-114 標準価格 ¥550,000 (税別)

側臥位、四つん這いを含む正常分娩時の介助演習が可能です。
会陰保護から、胎児・胎盤の観察など一連の演習ができます。
下肢があるため、臨床に近い状態での演習ができます。
外陰部は旧製品の物（内診モデル外陰部Ⅱ型、
分娩介助モデル用外陰部Ⅱ型、裂傷縫合モデル外陰部）
をそのまま使用することが可能です。

株式会社 高研

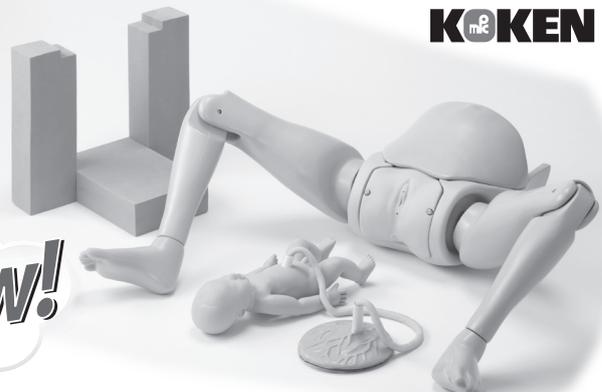
札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)393-5115

東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580

大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101

***** www.kokenmpc.co.jp © 2021 KOKEN CO., LTD.

New!



自転車事故への備えに。

ウィルネクスト
Willnext (団体総合生活保険)
ケガ・日常の賠償

保険期間

2021年3月31日午後4時～2022年3月31日午後4時まで
(毎月中途加入を受け付けております)
詳細につきましては下記取扱代理店までお問い合わせください。

このご案内は、Willnext「ケガ・日常の賠償」の概要をご紹介します。ご加入にあたってはパンフレットに記載の「重要事項説明」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合は取扱代理店までお問い合わせください。

制度運営 一般社団法人日本看護学校協議会共済会
引受保険会社 東京海上日動火災保険株式会社 (担当課) 医療・福祉法人部
〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 ラ・メール三番町 TEL:03-3515-4143

相手にケガをさせた(個人賠償責任補償)

65%
割引

支払い限度額 1億円 示談交渉サービス付き
国内外 (国内のみ)

配偶者やご家族が起こした事故も補償!

都道府県により加入が義務化されている「自転車損害賠償保険等」の条件を満たしています。

年間保険料
620円
(1ヶ月あたり約52円)

自分がケガをした(傷害補償)(国内外24時間)

約68%
割引

1日目から! (免責日数なし)!

通院日額 3,000円 入院日額 5,000円

年間保険料
5,630円
(1ヶ月あたり約469円)

資料請求・お問い合わせ先 取扱代理店
株式会社メディックプランニングオフィス 〒104-0033 東京都中央区新川12-22-6 SJビル2F
☎0120-847861 9:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)
20-TC09135(2021年2月作成)

周産期医療における新型コロナウイルス感染症

横浜市立大学産婦人科

倉澤 健太郎

はじめに

先の読めない時代の象徴ともいえるコロナ禍は、2019年12月より中国で原因不明の肺炎が増加しているとの情報から、わずか1か月後には死亡例が報告されたことに始まる。国内では、横浜港にダイヤモンドプリンセス号が入港して以来、一気にわが身となった。2020年3月1日に厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部より各都道府県に対して医療提供体制を構築するよう事務連絡が出された。災害時など非常時の際に、小児周産期領域の対策が十分に取られにくいことは東日本大震災からの教訓であり、神奈川県における周産期提供体制の構築について、この1年を振り返り総括することで今後の適切な対応の教訓としたい。

県対策本部の方針と周産期医療提供体制

神奈川県においては、ダイヤモンドプリンセス号（乗客2,666人、乗組員1,045人、陽性者723名、死亡者13名）の経験から全国モデルとなるべく新型コロナウイルス感染症対応をいち早く協議している。具体的には中等症（酸素投与もしくはそれに付随する程度の治療を要するもの）を診療できる「重点医療機関」を策定し集中化することで重症例の対応を行う高度医療機関をひっ迫させないとする「神奈川モデル」を作り上げた。ただし、公表された重点医療機関を見てみると、分娩取り扱い施設は一つしかなく周産期センターでもない一般病院であった。このため、「神奈川モデル」で対応が十分でない領域である小児・周産期、透析、精神疾患については別途体制整備を行う必要が出てきた。

感染症法

新型コロナウイルス感染症対策において大きなポイントの一つが、当初は新感染症として2類感染症扱いとなったことである。患者の同意は不要であり、医師は診断後直ちに保健所に氏名、年齢、性別などの事項について保健所を通じて都道府県知事に届ける義務があった。さらに、都道府県知事の職務権限として、入院の勧告や措置、必要に応じた転院などの移動にとどまらず、病原体に汚染されていると考えられるエリアや物品の消毒指示、水の使用制限、建物への立ち入り制限などの対物措置を行うことができると規定されている。

神奈川県産婦人科医会 COVID-19対策協議会

なかなか集合形式の会議体が催される状況でも

なく、妊産婦については県の医会長をトップとして、周産期医療や災害対策の部会・委員会からなる「COVID-19対策協議会」を立ち上げ、取り組むべき課題を明らかにした。まず、受け入れ病院の絶対数が少なく搬送システムの構築が急務であること、そして感染症法に基づくため医師間や病院間での搬送調整は不可能であることである。そして、県内の約半数の分娩機能を担っている有床診療所に負担を強いることはできないこと、とはいえ平時でも多忙を極める総合・地域周産期センターや感染症指定病院かつ中核・協力病院へのしわ寄せも避けなくてはならない、ということである。さらには、これまで機能縮小の一途をたどってきた保健所は、その機能は完全にキャパシティオーバーに陥っており、周産期医療の実情を勘案した搬送調整を依頼する状況ではなかった。当然、周産期医療協議会で新たな枠組みを作る時間的な余裕もノウハウもなく、COVID-19対策協議会では、県の対策本部に周産期医療に精通した人材を配備することが問題解決の一助になると考えた。つまり、既存の周産期救急医療システムを利用しながら、県から委嘱を受けている災害時小児周産期リエゾンを活用することで円滑な搬送調整ができると判断した。幸い、今回のコロナ禍は一種の災害とは言え情報通信の離断がないため遠隔でも調整業務が可能と考えられた。

新型コロナウイルス感染症疑い及び確定妊婦の対応方針

通常の周産期救急医療システムでは、県が設置した中央情報センターが搬送調整機能を担うが、感染症法の下ではシステムを利用することができなかったため、県知事（保健所長）の役目を誰かが担う必要があった。したがって、コロナ妊婦対応方針では、保健所が入院先を県や県の搬送調整コーディネーター（各ブロックの産科リエゾン）と協議して決定するというプロセスとした。災害時小児周産期リエゾンも各ブロックで調整を行う「ブロック産科リエゾン」と全体調整を行う「当番産科リエゾン」の2段階構成とした。

しかしこの体制では、新型コロナウイルス感染の拡大状況では一部に負担が生じる懸念があり、来るべき波に備えるためにはさらに盤石にする必要があった。コロナウイルス感染に関する知見も増えてきたので、妊娠36週以下と37週以降に分けて新たな運用に変更した。病床がひっ迫した際には自宅療養も可能とし、その際には行政は助産師会の力を借りて妊婦の不安に寄り添うように配慮した。

県内の発生状況

県内の新型コロナウイルス感染症妊婦の情報については、県対策本部や政令指定都市からの情報及び各ブロックの災害時小児周産期リエゾンより収集した。あらかじめブロックリエゾンには情報整理のために妊産婦情報シートとクロナロジーのひな形を配布した。

2020年2月1日から2021年3月31日までに、神奈川県において新型コロナウイルス感染症に罹患した妊婦は197人であった。同時期の累積陽性者数は48,120人であり、陽性者のうち妊婦の割合は、0.41%となる。神奈川県の人口は9,222,618人(H27)であり、出生数は73,475人(H27)である。一概に比較はできないが、人口の0.8%が妊娠中と考えられるので、妊婦は一般よりも罹患しにくい可能性もあると思われるが、十分感染対策をしながらの生活を送っているのではないかと推測している。

新型コロナウイルス感染症に罹患した妊婦の週数は、妊娠4週から39週まで幅広く、第1三半期が31.4%、第2三半期が29.4%、第3三半期が36.0%であった。また、濃厚接触者が47.2%に認められ、そのうち約75%が夫であった。重症度別では、無症状が15.2%、軽症が77.2%と大半を占めており、重症は1例(0.51%)であった。そして、入院管理を行ったのが18.8%であった。これは、入院を考慮する際に週数や重症度、施設におけるコロナ病床の程度に加えて感染拡大状況にもよるものと考えられ、入院が考慮される症例も入院できなかった可能性がある。この点は、入院の適応を含めて現在神奈川県と調整中である。

2021年1月を中心に、いわゆる第4波が到来し、若年者の新型コロナウイルス感染症陽性者も増えたことから、妊婦の要請割合も増加傾向であった。

今後の課題

新型コロナウイルス感染症妊婦の対応を検討する際に難しい点として、軽症・無症状の妊婦に対する対応である。限られた病床の逼迫を避ける必要もあしながら、自宅待機中の急変報道もあり、妊婦の扱

いをどのようにするのがベストであるのか判断が難しい。当初は高齢者、基礎疾患のある者、免疫抑制状態である者とならんで妊娠しているものもすべからず入院となっていたが、自宅療養や宿泊施設療養の選択肢についても検討した。県としては入院を第一としていたが、県ではホテルなどの療養所の選択肢がなく、調整に難航した。一方で入院を勧奨したものの自宅療養を選択するケースも散見された。この経験から、隔離の基本は踏襲しつつ現実に沿った対応を検討する必要がある。さらにヒアリングを進めると、妊娠経過は順調でも閉ざされた空間での生活が続くと妊婦やその家族の心理的安全性が担保されない可能性があることがわかってきた。このため、県の助産師会に産科的ケアのみならず心のケアを含めた妊婦に寄り添った行政サービスを展開することとした。また、これまで災害時に準じたオペレーションを心がけてきたが、今後は長期化を見据えた平時の救急対応となるような体制づくりも必要かと感じている。実は2021年2月に感染症法が一部改正され、「指定感染症」から「新型インフルエンザ等感染症」と扱いが変更されたことにも留意したい。これは、期限の定めなく必要な対策が講じられることを目的としている。

終わりに

本稿では新型コロナウイルス感染症に罹患した妊婦の受け入れ体制を構築した経緯を述べた。コロナウイルスについては、新しい知見がめまぐるしく報告されているが、ウイルス自体の変異もあり、本年に入りワクチンも登場するなど状況は刻々と変化している。現状の課題を探索するためには、学術団体からの情報だけではなく、厚労省から発出される事務連絡や県・市の新型コロナウイルス感染症対策本部での情報収集を心がけた。引き続き公助、共助も考えながら感染防御も含めた自助にも支援が届くようにしたいと思う。同時にいわゆる第5波、第6波への周到な準備を行い、妊婦に寄り添う支援策を迅速かつ柔軟に具体化したい。

水と、空気と、睡眠と。

東洋羽毛 睡眠セミナー無料サービスのご案内

睡眠セミナー講師を無料で派遣いたします。

東洋羽毛では「睡眠健康指導士」の資格を有した社員が講師を務める充実したセミナーをご用意しています。正しい情報を得て睡眠習慣を見直し、イキイキと健康的な毎日を歩むお手伝いをさせていただければ幸いです。

*オンラインセミナーの開催も承ります

睡眠セミナー講師は新型コロナウイルスの感染予防対策（検温・うがい・手指のアルコール消毒・マスク等の着用・受講者とのソーシャルディスタンスの確保等）を行いながらセミナーを実施しています。

《お役に立てる主な研修》

- ★ 医療安全対策研修
- ★ メンタルヘルス研修
- ★ 学校保健委員会
- ★ 高齢者の睡眠ケア

よく眠った人には、かなわない。



東洋羽毛イメージキャラクター 桃井かおりさん

TUK 東洋羽毛工業株式会社
〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺2-26-5

お客様相談室
0120-410840

◆セミナーに申しましては、下記のメールフォームよりお問い合わせください。担当よりご連絡させていただきます。
<https://www.toyoumo.co.jp/seminar>



公益社団法人 全国助産師教育協議会

2020年度 第4回理事会次第

日 時：2020年10月18日（日）13：00～16：00
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：村上 明美、渡邊 典子、渡邊 浩子、正岡 経子
 小川久貴子、久保田君枝、近藤 良子、鳥越 郁代
 長島貴久代、野口 純子（10名/10名）
 出席監事：猿田 了子、武田江里子（2名/2名）
 出席幹事：山崎 圭子 書記：山崎 圭子
 陪 席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第

- I 会長挨拶
- II 審議事項
 - 1) 広報委員会
 - ①HPリニューアル：デザイン案
 - ②HP：会員校一覧掲載、写真掲載
 - ③第46回全国研修会開催概要
 - 2) 庶務・総務関係
 - ①2020年度第3回理事会議事録（案）承認
 - ②旅費規程の一部改正
 - ③2021-2022理事、および2021-2024監事選挙
 - ④正会員入会 ⑤個人会員入会
 - 3) 会計関係
 - ①2020年度全国助産師教育協議会修正予算案
 - ②基金設立
 - 4) 組織強化委員会
 - ①「会員に関する規程」第8条（会員の特典）第2項の追加（案）
 - ②賛助会員の入会勧奨案内書（案）とチラシ（案）
 - ③賛助会員の企業リスト、および企業への配布方法
 - 5) 村上会長
 - ①日本助産師会コアコンピテンシー改訂委員会デルファイ調査協力者募集
 - ②助産師教育将来ビジョンについて
 - 6) 研修センター運営委員
 - e-learningコンテンツ単品の販売にかかるシステム変更

III 報告事項

- 1) 庶務・総務関係
 - ①パートタイム労働者就業規則
 - ②パートタイム労働者の昇給および賞与等
- 2) 会計関係
 - 2020年度 全国助産師教育協議会上半期の収支状況正味財産増減計算対比表
- 3) 教育検討委員会
 - 第35回日本助産学会学術集会抄録
- 4) 組織強化委員会
 - 2020年度活動マップについて
- 5) 助産師教育研修研究センター委員会報告
 - 2020年度教育研修の進め方-ファーストステージ研修（科目単位、オンラインによる研修）
- 6) 各委員会活動報告（国際関連活動委員会、社会貢献委員会、将来構想委員会）
- 7) CLoCMiPレベルⅢ〔教員〕の更新要件
アドバンス助産師更新要件研修の受講証明証のHP更新
- 8) 第35回日本助産学会学術集会シンポジウムについて

2020年度 第5回理事会次第

日 時：2020年12月6日（日）13：00～17：15
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：村上 明美、渡邊 典子、渡邊 浩子、正岡経子
 小川久貴子、久保田君枝、近藤 良子、鳥越郁代
 長島貴久代、野口 純子（10名/10名）
 出席監事：猿田 了子、武田江里子（2名/2名）
 出席幹事：山崎 圭子 書記：山崎 圭子
 陪 席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第

- I 会長挨拶
- II 審議事項
 - 1) 広報委員会
 - HPのリニューアルデザイン修正案
 - 2) 庶務・総務関係
 - ①2020年度第4回理事会議事録（案）承認

- ②Zoom契約及びZoom規定
- ③省庁要望書案
- ④正会員・賛助会員入会
- ⑤個人会員入会
- ⑥マイナンバーに関する誓約書

3) 広報委員会

- ①HP用写真
- ②第46回全国研修会概要

4) 資格・専門能力委員会

「第104回助産師国家試験追試験問題と回答肢の適否の検討」に関するスケジュールと内容

5) 村上会長より

- ①助産師教育将来ビジョン2021案
- ②日本医療機能評価機構再発防止委員会リーフレットHP掲載
- ③第35回日本助産学会シンポジスト募集

6) CLoCMiP[®]更新要件について

III 報告事項

- 1) 庶務・総務関係
 - ①選挙スケジュール
 - ②中止・中断となった助産学校実習状況
 - ③旅費規程
- 2) 会計関係
 - ①会務手当申請書・領収書
 - ②「資金水痘表」記載要領・会計科目解説修正版
 - ③2020年度修正予算
 - ④2021年度角委員会事業計画・予算案の作成依頼
- 3) 各委員会活動報告（国際関連活動委員会、教育検討委員会、社会貢献委員会、将来構想委員会、組織強化委員会、広報委員、助産師教育研修研究センター委員会）

IV その他

第12回（通算57回）公益社団法人全国助産師教育協議会社員総会前日の理事会開催

2020年度 第6回理事会次第

日 時：2021年1月9日（土）12：30～16：00
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：村上 明美、渡邊 典子、渡邊 浩子、正岡 経子
 小川久貴子、久保田君枝、近藤 良子、鳥越 郁代
 長島貴久代、野口 純子（10名/10名）
 出席監事：猿田 了子、武田江里子（2名/2名）
 出席幹事：森 聖美、山崎 圭子 書記：森 聖美
 陪 席：平沢美恵子（助産師教育研究センター長）

議事次第

- I 会長挨拶
- II 審議事項
 - 1) 広報委員会
 - HPリニューアル（修正前後のHPトップ画面）
 - 2) 庶務・総務報告
 - ①第5回理事会議事録（案）承認
 - ②個人会員入会
 - ③2021年度全国助産師教育協議会事業計画（案）
 - 3) 会計関係
 - 2021年度全国助産師教育協議会事業計画・予算（案）
 - 4) 助産師教育における将来ビジョン2021（案）のパブコム募集
 - 5) 厚生労働省行政推進調査事業費
今後の社会情勢や助産師の活躍の場の発展を見据えた技術教育の内容及び方法確立のための研究（3年間）について

III 報告事項

- 1) 庶務・総務関係
 - 要望書提出
- 2) 教育検討委員会
 - ①ミニマムリクワイアメントのカリキュラム改正に合わせた修正の進捗状況
 - ②助産師教育修了（卒業）時の到達度自己評価に関する実態調査のお願い
- 3) 広報委員会報告
 - 全国研修会開催内容
- 4) 各委員会活動報告（国際関連活動委員会、社会貢献委員会、将来構想委員会）
- 5) 助産師教育研修研究センター委員会
教育研修研究センター報告

IV その他

- 1) 2021年度第12回公益社団法人全国助産師教育協議会社員総会
- 2) アドバンス助産師更新要件研修承認 事前申請書(修正案)

2020年度 第7回理事会次第

日 時：2021年2月26日(金) 13:00~16:00
 場 所：全国助産師教育協議会事務局(ウェブ会議)
 出席理事：村上 明美、渡邊 典子、渡邊 浩子、正岡 経子
 小川久貴子、近藤 良子、鳥越 郁代、長島貴久代
 野口 純子(9名/10名)
 出席監事：猿田 了子、武田江里子(2名/2名)
 出席幹事：森 聖美 書記：森 聖美
 陪 席：平沢美恵子(助産師教育研究センター長)

議事次第

- I 会長挨拶
- II 報告事項 1
 - 1) 教育検討委員会報告
「2022年指定規則の改正にともなう現行のミニマム・リクワイヤメンツVo.2(2012-)について再検討」
 - 2) 広報委員会
HPリニューアル(進捗報告)
- III 審議事項
 - 1) 庶務・総務関係
 - ①第6回理事会議事録(案)
 - ②2020年度第1回地区長会議事録(案)
 - ③個人会員入会
 - ④第12回(通算57回)総会プログラム(案)
 - 2) 村上会長より
 - ①2020年度助産学実習実態調査
 - ②2021年度事業計画と委員会分担

IV 報告事項 2

- 1) 国際関連活動委員会
国際関連委員会報告
- 2) 社会貢献委員会
 - ①第35回日本助産学会学術集会報告
 - ②Nursing Now キャンペーンイベント終了報告
- 3) 組織強化委員会
助産師養成課程をもたない短大大学および看護専門学校への個人会員入会勸奨の活動
- 4) 助産師教育研修研究センター委員会
助産師教育協議会研修センター1st、2nd研修、教育進捗状況
- 5) 広報委員会報告
HPの写真について
- 6) 資格・専門能力委員会
 - ①第104回助産師国家試験分析結果厚労省提出用資料
 - ②第104回助産師国家試験問題に関する分析担当校からの意見
- 7) 助産師教育研修研究センター委員会報告
教育研修研究センターの進捗状況
- 8) 村上会長
「助産師教育における将来ビジョン2021(案)パブコメの対応について」

V その他

- 1) 会計

2021年度全国助産師教育協議会事業計画・予算案確定に向けた今後のスケジュールについて

- 2) 役員選挙の進捗状況
- 3) その他
WHCの内容以外の研修をWHC研修と認めることに関する確認

2021年度 第1回理事会次第

日 時：2021年4月24日(土) 13:00~16:00
 場 所：全国助産師教育協議会事務局(ウェブ会議)
 出席理事：村上 明美、渡邊 典子、渡邊 浩子、正岡 経子
 小川久貴子、久保田君枝、近藤 良子、鳥越 郁代
 長島貴久代、野口 純子(10名/10名)
 出席監事：猿田 了子、武田江里子(2名/2名)
 出席幹事：森 聖美、山崎 圭子 書記：森 聖美
 陪 席：平沢美恵子(助産師教育研究センター長)

議事次第

- I 会長挨拶
- II 審議事項
 - 1) 庶務・総務関係
 - ①第7回理事会議事録(案)承認
 - ②正会員入会・退会・個人会員入会承認
 - ③第12回(通算57回)社員総会詳細確認
・総会プログラム(案)・総会司会等、役割確認
・各委員会報告、地区/全国研修会報告、HP掲載事業報告確認
・議決権行使書作成
 - ④役員選挙について
・理事候補者及び監事候補者理事会推薦理事候補者
 - ⑤委員会運営規程改定(案)
 - ⑥助産師教育研修研究センター設置規定改訂(案)
 - ⑦2020年度FS研修受講生のアドバンス更新
 - 2) 会計関係
2021年度収支予算
 - 3) 広報委員会
 - ①ニュースレター93号編集(案)
 - ②ニュースレターの執筆料(謝金)
・トピック執筆等、会員以外の方の謝金改正
 - 4) 村上会長より
第104回助産師国家試験において指摘された助産師教育課程テキスト記載内容への疑義
- III 報告事項
 - 1) 教育検討委員会
 - ①評価班：「助産学生の看護基礎教育課程における看護技術到達度と実習実施状況」調査協力依頼
 - ②推進派：1)改正内容まとめ
2)「2020年度ミニマム・リクワイヤメンツの改訂版」(案)
 - 2) 広報委員会報告
リニューアルHPの公開報告
 - 3) 各委員会活動報告(社会貢献委員会、将来構想委員会、組織強化委員会)
 - 4) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①研修研究センターのファースト研修、セカンド研修、特定分野実習指導者講習会の進捗状況

周産期・育児期のこころの問題をもつ母親への支援をわかりやすく解説!

続 母親のメンタルヘルスサポートハンドブック
産婦自殺・母子心中をなくすための対応ガイド

立花良之 著 | B5判 152頁 定価3,520円(本体3,200円+税10%) ISBN978-4-263-23753-3

妊産婦死亡原因第1位である産婦自殺と、赤ちゃんの命まで犠牲にしてしまう母子心中を防止するための取り組みを、10の症例とともに詳解。日本の優れた親子保健システムに「すこしだけプラスアルファ」することで、多くの命が救われます!

母親のメンタルヘルスサポートハンドブック

気づいて・つないで・支える 多職種地域連携

立花良之 著 | B5判 136頁 定価3,080円(本体2,800円+税10%) ISBN978-4-263-23684-0



こちらを読み取ると
詳しい情報が
ご覧いただけます



医歯薬出版株式会社

☎113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

https://www.ishiyaku.co.jp/

- ②センター運営委員会委員の交代について
- 5) 2020年度助産学実習の実態調査 結果報告
- 6) CBT問題作成の協力依頼

2021年度 第2回理事会次第

日 時：2021年6月19日（土）9：00～11：00
 場 所：全国助産師教育協議会 事務局（ウェブ会議）
 出席理事：村上 明美、渡邊 典子、渡邊 浩子、正岡 経子
 小川久貴子、久保田君枝、近藤 良子、鳥越 郁代
 長島貴久代、野口 純子（10名/10名）
 出席監事：猿田 了子、武田江里子（2名/2名）
 出席幹事：森 聖美、山崎 圭子 書記：森 聖美
 陪 席：平澤美恵子（助産師教育研修研究センター長）

議事次第

- I 会長挨拶
- II 審議事項
 - 1) 庶務・総務関係
 - ①第1回理事会議事録（案）
 - ②アドバンス助産師更新要件に関する日本助産評価機構からの回答
- III 報告事項
 - 1) 社会貢献委員会活動報告
 - 2) 広報委員会報告
 - ①ニュースレター93号編集（案）
 - ②HP賛助会員バナー
 - 3) 助産師教育研修研究センター委員会
 2021年度特定分野保健師助産師看護師実習指導者講習会（8/16～）申し込み状況
- IV その他
 総会についての確認

2021年度 第3回理事会議事次第

日 時：2021年6月19日（土）16：05～17：00
 場 所：全国助産師教育協議会会議室（WEB開催）
 出席理事：入山 茂美、小川久貴子、近藤 良子、高田 昌代
 永松 美雪、葉久 真理、村上 明美、渡邊 浩子
 （8名/9名）
 出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
 出席幹事：森 聖美 書記：森 聖美

議事次第

- I 会長（代表理事）選定の件 村上明美氏承認
- II 新理事の担当の件
 - 1) 庶務・総務：葉久真理氏、会計：入山茂美氏
 委員会担当理事 教育検討委員会：蛸崎奈津子氏
 資格・専門能力員会：渡邊浩子氏
 将来構想委員会：高田昌代氏
 組織強化委員会（国内・国外）：永松美雪氏
 社会貢献・広報委員会：近藤良子氏
 助産師教育研修研究センター運営委員会：小川久貴子氏
 - 2) 幹事承認（理事会運営規程第17条）
 藤井宏子氏（会計補佐）、青柳優子氏（庶務補佐）承認
- III 副会長の任命の件 村上会長より
 庶務総務担理事の葉久真理氏、渡邊浩子氏任命 承認
- IV 次年度（2022年度）の総会開催の件確認
 開催日時は2022年6月18日～19日
 開催方法は対面のみにはしない方針
 日本看護協会総会や日本助産師会総会などと日程が重ならないこと確認
- V その他 事務局
 新理事登記申請用、必要書類連絡

2021年度 第4回理事会次第

日 時：2021年7月11日（日）13:00～15:30
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：入山 茂美、小川久貴子、近藤 良子、高田 昌代
 永松 美雪、葉久 真理、村上 明美、渡邊 浩子
 蛸崎奈津子（9名/9名）
 出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
 出席幹事：青柳 優子 藤井 宏子 書記：藤井 宏子
 陪 席：平澤美恵子（助産師教育研修研究センター長）

議事次第

- I 会長挨拶

II 審議事項

- 1) 庶務・総務関係
 - ①第2回理事会議事録（案）承認
 - ②2021年第12回社員総会議事録（案）・第3回理事会議事録（案）承認
 - ③個人会員入会承認
- 2) 各委員会委員の承認
- 3) 助産師教育研修センター運営委員会委員の承認
- 4) CLoCMiP レベルⅢ [教員] 更新要件
 今後のアドバンス助産師更新要件研修承認について

III 報告事項

- 1) 会計報告
 - ①令和3年予算計上した研修事業資金（200万円）の研修内容とその使用期限について
 - ②遊休財産保有制限に関する200万円の黒字分使途
- 2) 助産師教育研修研究センター委員会
 本年度の計画方針

IV その他

理事会・地区長会の年間スケジュール案

編 集 後 記

2020年は、授業・実習とも新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に追われ、助産教育にとって初めて尽くしの1年でしたが、2021年になってもこれほどまで収束の兆しが見えない状況になると、推知できていたでしょうか。まだまだ先が見えない中、今年度も多くの先生方からご協力を賜り、ニュースレター93号を発刊する運びとなりました。今号では周産期医療における新型コロナウイルス感染という、現在周産期医療において大変関心の高い話題を取り上げ、倉澤健太郎先生にご解説頂きました。謎に満ちたウイルスの脅威にさらされていた状況から、少しずつ謎が解明され、的確な対策を取り適切な対応をしていく術を我々は身につけていくことが求められています。鍵は上手に共存していくことかもしれません。

今年度より、昨年度までの広報委員会と社会貢献委員会が合併して、広報・社会貢献委員会となりました。両委員会の先生方がこれまでご尽力下さり形作られた活動を、しっかりと受け継ぎ、継続していく所存です。今後とも何卒よろしくお願い致します。

井上 明子（愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科）
 北村万由美（広島国際大学 助産学専攻科）
 望月千夏子（帝京大学 助産学専攻科）
 坂田 清美（帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科）
 近藤 良子（日本赤十字社助産師学校）

●助産師教育ニュースレター 第93号

2021年10月1日
 発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会事務局
 Japan Society of Midwifery Education (J.S.M.E)
 会長 村上 明美
 〒160-0003
 東京都新宿区四谷本塩町7-9 四谷ニューマンション203号
 TEL 03-6384-2075 FAX 03-6384-2076
 (火・木・金 事務局在室)
<http://www.zenjomid.org/>
 E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

※事務局は令和2年2月1日に
 移転しました。

全国助産師
 教育協議会
 QRコード



<http://www.zenjomid.org/>
 バーコードリーダーで読み取ってください